



YouTube

磐田市公式チャンネル「磐田TV」



まちの話題

5月20日 ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦 子どもたちが勝利を願って全力応援

ヤマハスタジアムに柏レイソルを迎えて、市内全22小学校の5・6年生約3,100人がジュビロ磐田のホームゲームを観戦する「一斉観戦」が行われました。

一斉観戦に先立ち、5月10日(休)には市と包括協定を結んでいるポッカサッポロフード&ビバレッジ㈱から、応援する子どもたちのためにタオルマフラーなどが贈呈されました。贈呈式で同社名古屋戦略部の青木正実部長は「一斉観戦を通して、ふるさとを思う気持ちを培ってほしい」と語りました。

また、応援による一体感や喜びを味わってもらおうと、磐田中部小学校など7校でサポーター団体による応援指導が行われました。

試合当日、スタジアムでは子どもたちの大声援が選手を後押ししましたが、残念ながら0対2で敗戦となりました。観戦した小木涼平さん(田原小5年)は「結果は残念だったけれど、初めてスタジアムで試合を見て、ジュビロ磐田が好きになりました」と話しました。



- ①子どもたちも「ジュビロ磐田」の大声援
- ②一斉観戦用にタオルマフラーを寄贈していただきました
- ③応援練習にも熱が入りました

5月21日 渚の交流館感謝祭&合同海難訓練 オープン1周年の感謝を込めて



▲60店舗が集結した「渚のマルシェ」は多くの人でにぎわいました

昨年1年間の入場者数が20万人を超えた渚の交流館。同館のオープン1周年を記念して「渚の交流館感謝祭」が開催され、多くの来場者でにぎわいました。

当日は遠州地域の農林水産物やハンドメイド品などを販売する「渚のマルシェ」、消防車や救急車、パトカーなどを展示する「はたらくクルマ展」のほか、海上ではヘリコプターや巡視艇による「合同海難訓練」が行われ、来場者は海への理解を深めていました。

5月14日 第26回みんなで軽トラ市 いわた☆駅前楽市 母の日のプレゼントを作ったよ



▲世界で一つだけのエコバッグをお母さんにプレゼント

日本最大級の103台の軽トラが出店し「第26回みんなで軽トラ市 いわた☆駅前楽市」が開催され、約1万2千人の来場者が買い物などを楽しみました。

母の日にちなみ、軽トラ市オリジナルエコバッグにお母さんへ感謝の気持ちを書き込むイベントが子どもたちに大人気。JR磐田駅北口広場では、いわた茶の「お茶当てクイズ」や「アコースティック・コンサート」も行われ、多くの人でにぎわいました。



5月1日 とよおか学府一斉避難訓練 私たちにできることって何だろう

豊岡中学校で、豊岡こども園と合同の避難訓練が行われました。自分たちにできることを考え、行動できるようにと、生徒たちは学年ごとに簡易トイレの設置やアルファ米の炊き出しのほか、迎えが遅くなることを想定して、隣接することも園児の世話などにも取り組みました。



清水心結さん(1年)は「心臓マッサージの力加減が難しかったです」と緊張した様子で話しました。

5月18日 アース・キッズチャレンジ (キックオフ) エコな生活に挑戦しています！

市内の小学校12校で、自転車発電やゴミ分別ゲームなどを通して、地球温暖化防止のために自分たちができることを見つけようと、楽しみながら2週間のエコ生活に挑戦しています。



福田小学校のキックオフイベントには、5年生120人が参加。鈴木仁琴さんは「家でも無駄な電気を使わないように気を付けます」と話しました。

5月24日 田原幼稚園児がイチゴ摘み体験 真っ赤なイチゴだ～い好き！

田原幼稚園の年中・年長児が地区でイチゴを栽培する西尾満さんのハウスでイチゴ摘みを体験しました。



パックいっぱいイチゴを摘んだ園児らは「こんなに取れたよ」「おいしそう」などと大喜び。西尾さんは「来年もおいしいイチゴを作ります」と笑顔で話しました。

この日摘んだイチゴは、園に持ち帰り全園児でおいしくいただきました。

5月20日 親子タグラグビー教室 タグラグビーが「校技」です



▲ヤマハ発動機ジュピロの選手らとタグを取り合う児童

東部小学校では、「校技」のタグラグビーを通して親子の親睦や学校と家庭の親睦を深めようと、5年生児童120人とその保護者が参加して親子タグラグビー教室を行いました。

教室にはヤマハ発動機ジュピロの選手やスタッフも参加し、軽快なステップやボールさばきを披露しました。鈴木芭奈さんは「お父さんと初めてタグラグビーをして楽しかったです」と話しました。

5月12日 母の日のカーネーション摘み お母さん、いつもありがとう



▲学生さんにカーネーションの摘み方を教えてもらったよ

5月14日(日)の母の日を前に、磐田中部幼稚園の年長児31人が県立農林大学校を訪問し、カーネーション摘みに挑戦しました。

包装用のフィルムに思い思いの絵を描いた園児らは、学生に教えてもらいながら色とりどりのカーネーションを摘み、花束を作りました。齋藤美空さんは「赤いカーネーションを摘みました。お母さんに渡すのが楽しみです」と話しました。